

様式1

令和4年度 学校評価表

| | | | | |
|---------|-----------------------------|-------------------|--------|--|
| 学校教育目標 | | 自ら学び、考え、発信する子供の育成 | | |
| a ミッション | 小中連携教育を核とした確かな学力定着の取組の充実と発展 | | a ビジョン | ○児童の主体性を育み、未来につながる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にする学校 ○家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校 |

尾道市立美木原小学校

| 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | | | 改善計画 | | | | | |
|----------|---------------------|-------------------------|--|---|--------------------|----------------------|--|---------|------------|--|------|---|--------|-------|--|---|
| b 中期経営目標 | c 短期経営目標 | d 目標達成のための方策 | e 評価指標 | f 目標値 | 7月 | 1月 | h 達成度 | i 評価 | j 結果と課題の説明 | k 二次評価 | | | l コメント | m 改善案 | | |
| | | | | | g 達成値 | g 達成値 | | | | イ | ロ | ハ | | | | |
| 学びを創る | 「考える 伝え合う力」の育成 | 読解力の向上 | ①フレームリーディングによる「読むこと」の指導 ②思考ツールの活用 | ①学期末テスト・活用テストの校内平均点（国語科 思考・判断・表現の観点） ②（12月）標準学力調査の平均通過率（国語科） | 全国平均以上 | ①85.8 (全国平均 83.5) | ①86.3 (全国平均 84.4) ②72.0 (全国平均 75.0) | 99.1 | B | 国語科の読解力を見取る学期末テスト・活用テストの校内平均点は86.3と全国平均を上回った。また、12月に実施された標準学力調査の校内平均点は72.0と全国平均を下回った。初見の問題に対しても、本文の内容を読み取りながら適切に答えることができるようになった一方で、問題の条件に合わせて自分の考えを持つことや自分の考えをまとめること、自分の考えを適切な言葉で表現することに課題が見られた。また、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することも課題が見られた。さらに、学年や児童による差が大きく、児童の実態やつまづきを正確に把握し、個に応じた適切な指導が必要である。 | 3 | イ | ロ | ハ | ・フレームリーディングの手法が効果を上げているのは楽しみです。 ・自分の意見を表に出すことや相手にわかってもらえる言葉で表現することは多くもって難しいです。いろんな場面で数多く体験させてあげてほしいです。 ・このつまづきをうまくキャッチしてフォローを！ ・国語の読解力が他教科の思考・判断・表現力にもつながっていくと思うので、基本的な力がしっかりと身につけていけばと思います。 ・テストの結果が悪くてもさらに個々の弱点を見抜き、対応、さらに学力向上に努められているのが良く分かります。 ・学年間・児童間での差がつくのはやむを得ない。社会人になったときには逆転することもある。 | ・フレームリーディングの手法をより精査し、段落ごとのつながりや関係に着目した学習や、主張から文章全体の構成を把握し、内容を読み取る授業展開を計画・実施していく。 ・これまでのテストや授業の様子から児童の実態を正確に把握し、復習を中心とした家庭学習を行い、直しをやり切らせて、つまづきに丁寧に対応していくとともに、家庭でも連携を図っていく。 ・NIEワークシートを活用し、5W1Hを中心とした内容の理解や話の内容から見出しを考えて主張を見つけるなど、NIEタイムの持ち方も工夫していく。 ・コグトレやαドリルを継続して行い、個々の認知能力の向上や読解力の向上につなげていく。 |
| 生活を創る | 児童自らが学校生活を創る特別活動の充実 | 自己有用感の向上 | ①児童会とコラボレーションした委員会活動や名人表彰 ②縦割り班掃除での褒め褒めタイムの実施 | 自己有用感に関するアンケート（肯定的評価） 7月・12月・2月実施 | 上半期 85% 下半期 90% | 93.9 | 96.3 | 107 | A | 児童による「美木原アンケート」の結果、自己肯定感に関する項目では、肯定的評価をした児童が96.3%おり、目標の90%を上回った。下半期では、図書委員会のピリオパトルやおしりコンテスト、体育委員会の紙飛行機大会、児童会のあいさつ運動やクリスマス会等を実施した。紙飛行機大会は、1年生からのリクエストで実現し、下学年からの企画をして実行することもできた。また、毎週金曜日の掃除後に行うほめほめタイムも6年生以外の学年も素敵なお知らせを見つけて、ほめほめを発表できるようになってきた。しかし、発表する児童が固定化しつつあることが課題である。 | 3 | イ | ロ | ハ | ・自分達で考えた企画は達成感が大きいはず。よく発表して楽しいことをいえると思います。 ・児童会等の様々な企画によって、多くの子供たちが認められるという取組が他の方よりよさを認め合えることにつながっていると感じました。 ・児童の発表を活かして、行事等行い(自主的に)やる気、達成感が出たのではないかと思います。 ・ほめほめタイム、ありがとうカードでほめられたり感謝されることで自己肯定感も高まるし、いじめもなくなるだろう。 ・子供たちが自主的に発案し、行動することが素晴らしいと思う。その中に、先生達も共に加わって楽しむとよいと思う。 | どんなイベントをしたいのか意見を直接高学年の教室に伝えにいったが、毎月行う代表委員会で見聞を出す時間を設けることで、複数の委員から意見を聞きやすくなり、委員会ごとに検討したりする。ほめほめタイムは、様々な児童からほめほめができるように、ほめる視点を示し、素敵なお知らせを見つけて発表し合える場へとレベルアップしていく。 |
| 働き方改革 | 豊かな教育活動の実践 | よりよい働き方による勤務時間外在校等時間の減少 | ①セルフタイムマネジメントによる働き方（月1回以上） ②教職員間の連携 ・業務の見直し・児童の実態・取組 | 勤務時間外在校等時間の平均 | 40時間以下 90% | 91 | 100 | 111 | A | 勤務時間外在校等時間の平均が40時間以下を達成できた教員が100%であった。業務や行事が多い月は、40時間を超える職員が多くみられたが、長期休業中には定時で退勤する等の調整を行い、個々がタイムマネジメントを意識して働くことができた。2学期からは成績処理のための学期末特別時程を実施し、業務改善を図ることができた。毎月の分掌部会後の教職員間の連携を継続し、児童の様子や変容、授業実践について交流することで取組の共有や見直しを確認することができた。また、会議等の内容や時間を事前に起案、周知することで時間短縮を図ることができた。 | 3 | イ | ロ | ハ | ・先生間の横のつながりができているからか、とても良い空気感でした。働きやすい職場環境の下で子ども育てを頑張ってください。 ・先生方の健康や充実した生活が「豊かな教育活動」につながると思います。時短につながる工夫をされたり、連携の工夫をされたりとメリハリがあり、効率的な働き方に取り組まれていると思いました。 ・月平均40時間以下100%達成とのことで、かなり改善されていますが、心身の健康を守るためにもさらに減らすように努めてください。校長・教頭先生が時短の声をかけをしっかりとってください。 ・教員は、子供が将来にたい職業ランキングの上位を占めるため、今から働く環境を整えるようにしてほしい。 ・休憩時間は、どのように確保されていますか。 | ・長期休業中以外の勤務時間外在校等時間を減らすために、平日の退勤時刻の目標時刻を個々がより意識して業務の見直しを持ち、職員間で声掛けや連携を行っていく。 ・分掌部会後の職員間の交流を継続し、交流したことを全体で共有しながら連携を図っていく。 ・今後も学期末特別時程を継続すると共に、業務改善のアイデアを職員間で出し合い、働きやすい職場づくりを目指していく。 |

【自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
C：60≦(もう少し) < 80

B：80≦(ほぼ達成) < 100
D：(できていない) < 60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。